救世論文２

八十億全人類が知らない
人生の重大真実

再掲出

本論文は、先の救世論文１の核心「人類根本救済」の具体的意味を、天皇に知らしめるべく公開発表するものである。

ここまで堕落転落してしまった人の世を救うには、覚者と天皇の「合体協力」が絶対に必要不可欠だからである。

徳仁よ。実はだ。人類は「人生の重大真実」を何一つ知らないばかりに、何千年も悪夢を見続けてきているのだ。

そんなバカなと思うなら、以下の質問にどれか一つでも明答してみよ。

「自然」または「この世」とは何か。「神仏」とは何か。「人間」とは何か。「人生」とは何か。「幸せ」とは何か。

どうだ。全てお手上げだろう。だから悪夢を見ていると言うのだ。これらの明答をどれ一つ知らずに、よくもまあ無事に「幸せ」を求めて「人生」を生きてこられたものだ。危ない！危ない！

そんな危ない危ない人間モドキが八十億匹も、この限りある地球上で、全く無意味かつ有害無益な「名声や富の追求」に血眼（ちまなこ）になっているのだ。

そしてそれが全くの不自然・反神仏であるが故に、当然の報いとして今日、滅亡の淵に追い込まれているのである。

我が積年の「人類滅亡予感」は、神仏から来ていたのだ。それ故に一九九五年秋、私などに「天命」が下ったのだ。

「覚者」になれ！そして「救世天皇」たるべく命じる徳仁と二人三脚で、人類を悪夢から目覚めさせてやれ！とだ。

「人類根本救済」とは、この天命に従い、人類を滅亡の淵から救出してやる空前絶後の一大聖業のことなのである。

以下は前述質問の明答である。これの世界広報こそが、現天皇の天命なのだ。

○「自然」は、無限のミクロから無限のマクロへ、霊的かつ有機的に結ばれ合いつつ広がる「一大生命体」である。

○「神仏」は、自然全体を愛育しながら、その全てを完璧にコントロールしてくれている「大いなる生命エネルギーの発信大本」である。

○「人間」は、神仏の愛育エネルギーが一点集中して誕生した「地球」の、そのまた愛育エネルギーを一身に受けて出現した「神仏の分身」である。

人間だれしもに、生まれつき、神仏の心そのままの「真心」が備わっている事実が、その何よりの証拠である。

○「人生」は、「神仏の分身生活」である。人間同士互いに睦み合いつつ、万象万物全てを慈しみ愛育して、この「地球」を、より一層完全な神仏の楽園に進化させてゆくことこそが「人生の本義」であるのだ。

○「幸せ」は、神仏の分身生活をしさえすれば自ずと叶（かな）えられる、不安や心配が一切ない「絶対的な安心状態」の別名である。人類は本来、自然界随一の完全なる幸せの享受者であるのだ。

戦争を頂点とする不幸の全ては、自業自得の後天的なそれなのである。

※令和四年晩秋

覚者播磨屋助次郎　神託急告

※　弊社ホームページに公開した日付です。